

NEXCO東日本グループ 中期経営計画（平成26～28年度）

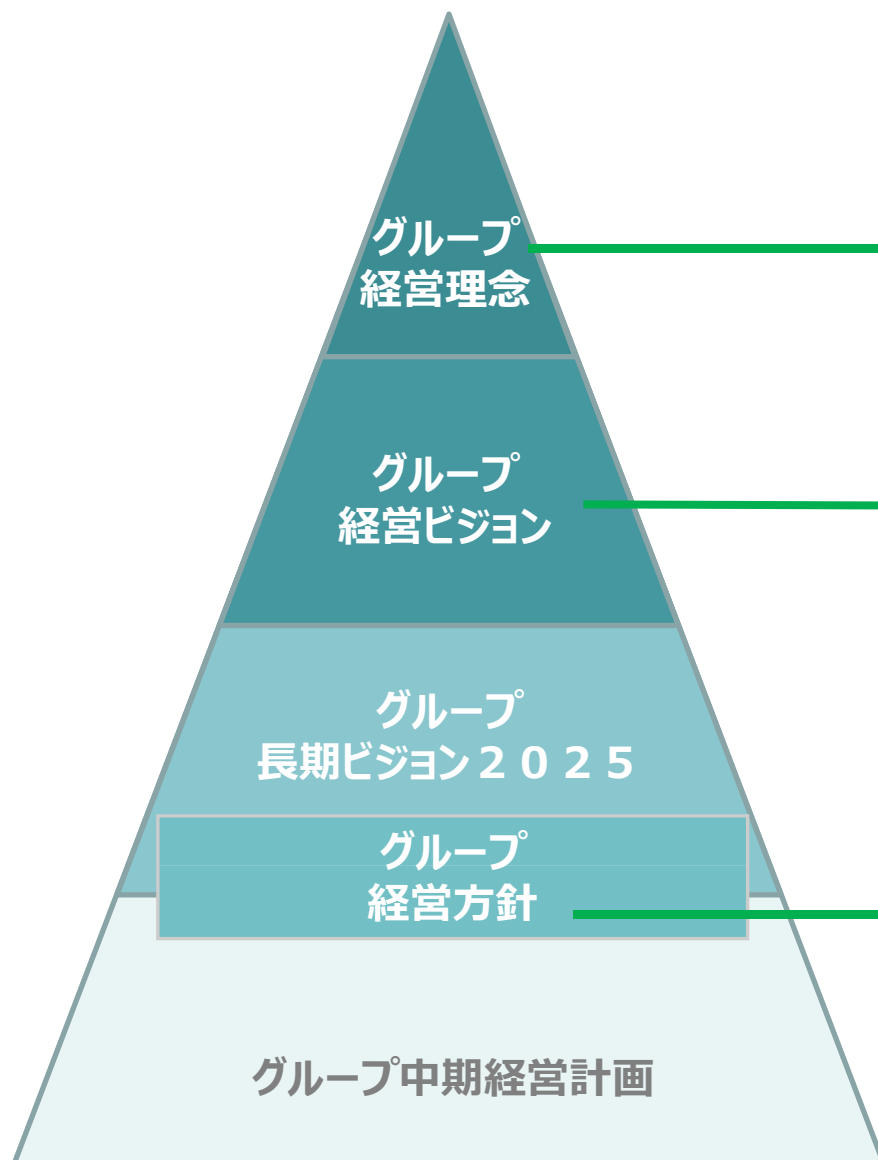
平成26年5月

あな た に、ベ ス ト・ウ ェ イ。



経営管理の体系

NEXCO



NEXCO東日本グループは、高速道路の効果を最大限発揮させることにより、地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献します。



NEXCO東日本グループは、地域・国・世代を超えた豊かな社会の実現に向けて、「つなぐ」価値を創造し、あらゆるステークホルダーに貢献する企業として成長します。



- お客さまを第一に考え、安全・安心・快適・便利を向上させます。
- 公正で透明な企業活動のもと、技術とノウハウを発揮して社会に貢献するとともに、的確な企業情報の発信を行います。
- 終わりのなき効率化を追求するとともに、経営資源を最適に活用することにより、お客さまサービスと企業価値を向上させ、健全な経営を行います。
- 社員各自の努力とその成果を重視し、チャレンジ精神を大切にします。
- 「お客さま」、「地域社会」、「国際社会」、「国民」、「環境」、「株主・投資家」、「取引先」、「社員」などのあらゆるステークホルダーに貢献するCSR経営を推進します。

中期経営計画 ―はじめに―



○NEXCO東日本グループでは平成23年度から平成25年度を「経営基盤の強化を図り、経営の安定、さらなる発展を目指す期間」と位置づけ、「中期経営計画(2011～2013年度)」の実行に取り組んできました。計画期間においては、道路管理では1日280万台のお客さまに安全・安心・快適・便利な高速道路を提供し、約1.3兆円の道路資産賃借料を支払い確実に債務を返済しました。道路建設では道東道夕張IC～占冠IC、常磐道南相馬IC～相馬IC、圏央道東金JCT～木更津IC等139kmの新規開通等を行いました。SAPAでは那須高原SA等6箇所のドラマチックエリアを開業するなどサービスの向上に努めてきました。また、東日本大震災の本復旧を100%完了させ、災害対策強化3カ年プログラムに基づく防災・減災対策を実施しました。

○このたび、民営化20年後を見据えた2025年に達成したい姿をまとめた『長期ビジョン2025』を定め、平成26年度から平成28年度までの3年間を「着実に事業を遂行し将来の飛躍につなげる期間」と位置づけ、『中期経営計画(平成26～28年度)』を策定しました。本計画においては、技術革新によって道路の高度化を進め、より安全・安心、快適・便利な高速道路を最小のコストで実現していきます。また、企業活動を通じて地域社会への貢献を目指すとともに環境保全への取り組みを進めていきます。さらに、グローバルな視点を持ちながら新たな分野に事業を拡大することで経営基盤の強化を図っていきます。あわせて、目指すべきグループ像実現のための企業文化を構築していきます。

2025年時点でのありたい姿

1. 国民から信頼されている企業

～ Reliable

安全・安心を最優先に、老朽化する高速道路の確実な維持管理など持続可能な社会の実現に向けた取組みを先駆的に進めるインフラ事業者の見本となるような企業になっている。

2. お客さまに必要とされている企業

～ Required

最小のコストで最大の満足を提供することを常に追求し、情報通信技術などを取り入れた新しい価値をお客さまに提供している。

3. 地域社会の期待に応えている企業

～ Responsible

地域社会との強い信頼関係が確立され、高速道路ネットワークや資産を活かした地域社会への貢献、地域社会との共存共栄につながる様々な取組みを継続的に行っている。

4. 国際社会から認められている企業

～ Recognized

高い技術力を活かし、国際社会のニーズに応えるために海外との信頼関係や海外での事業実施のノウハウを築いている。

5. 社員がやりがいを実感している企業

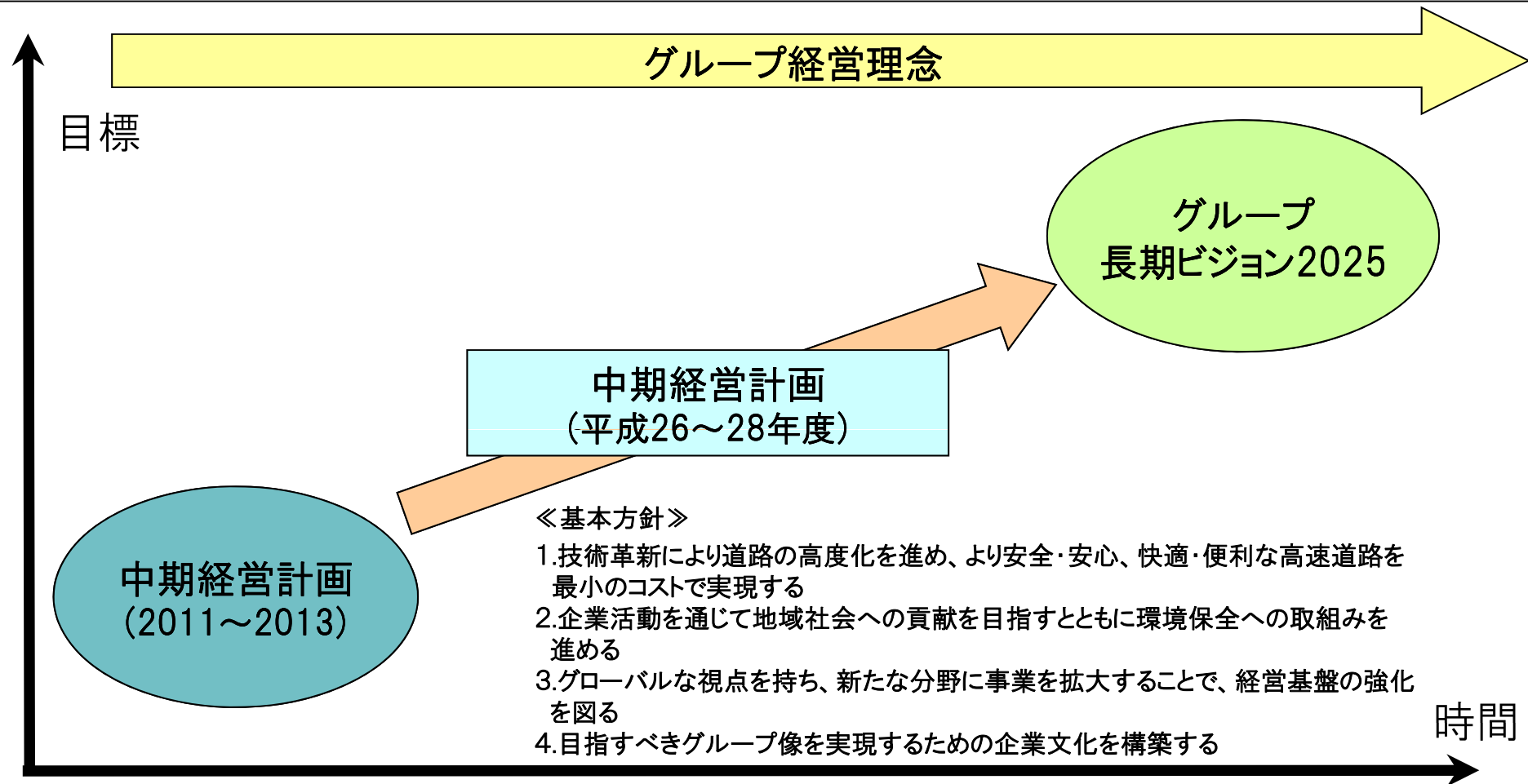
～ Rewarding

事業を通じて「つなぐ」価値を創造することが、社員のやりがいにつながる企業文化が確立されている。

中期経営計画(平成26～28年度)の位置づけ

NEXCO

中期経営計画(平成26～28年度)では今後3年間をグループ長期ビジョン2025の実現に向けたスタート期間として『着実に事業を遂行し将来の飛躍につなげる期間』と位置づけます。



中期経営計画 ―基本方針と主な戦略―



基本方針1：技術革新により道路の高度化を進め、より安全・安心、快適・ 便利な高速道路を最小のコストで実現する

- 24時間365日、安全で安心できる高速道路空間を提供し、お客さまの信頼を得ることに努めます…P12
- お客さまのニーズや利用スタイルに応じた快適さと利便性を感じる質の高いサービスを追求します …P16
- プロジェクトマネジメント力を駆使して、経営資源を最大限有効に活用しながら、着実に事業を進めます…P19
- 最先端の技術を取り入れ、維持管理し易く、より安全で高質かつ誰にでも使い易い高速道路空間を創出します …P22
- 安全を最優先とした技術開発を推進します …P23
- 居心地の良い時間と空間を提供できるSA・PAを展開します …P24

中期経営計画 ―基本方針と主な戦略―



基本方針2: 企業活動を通じて地域社会への貢献を目指すとともに

環境保全への取組みを進める

- 雪・地震の際には地域生活を支えるなど、高速道路の管理事業を通じ社会的使命と責任を果たします…P26
- 高速道路整備やコンサルティング業務等を通じて地域社会へ貢献します…P29
- 地球温暖化防止、循環型社会の形成、環境負荷の低減に資する取組みを推進します…P30
- 地域・お客さまとの「つながり」を形にできる細やかな施策を展開します…P33
- あらゆるステークホルダーに貢献するCSR経営を推進します…P34

基本方針3: グローバルな視点を持ち、新たな分野に事業を拡大する

ことで、経営基盤の強化を図る

- 市場拡大を見据え技術マーケティングの展開力を強化します…P35
- 将来の『飛躍』につながる事業化の可能性を追求します…P36
- グローバル・ネットワークの構築を推進し、海外事業の展開と社員の活躍の場を拡大します…P37

中期経営計画 ―基本方針と主な戦略―



基本方針4：目指すべきグループ像を実現するための企業文化を構築する

- 高速道路のプロ集団として、グループ一丸となり不断の道路管理を行い、未来に向け、一層マネジメント力を高めます…P40
- 効果的・効率的な企業活動を目指し、ITマネジメントの推進のもと、不断の業務改善を図ります…P42
- 会社の業績向上に資するため、経営管理力や現場力などの開発・強化につながるような人材を確保し、育成します…P43
- あらゆるステークホルダーのさらなる理解・共感につながる積極的な広報活動を行います…P44

中期経営計画 一財務計数計画一



【損益計画(連結)】

(税抜)

事業	科目	H26年度	H27年度	H28年度
高速道路事業	営業収益	9,994億円	9,373億円	8,504億円
	料金収入	6,986億円	7,273億円	7,426億円
	道路資産完成高	2,942億円	2,046億円	1,020億円
	その他の営業収益	65億円	52億円	57億円
	営業費用	9,970億円	9,357億円	8,485億円
	道路資産賃借料	4,779億円	5,016億円	5,089億円
	道路資産完成原価	2,942億円	2,046億円	1,020億円
	その他の営業費用	2,247億円	2,294億円	2,375億円
	営業利益	24億円	16億円	19億円
関連事業	【SA・PA事業】			
	営業収益	453億円	456億円	461億円
	営業費用	422億円	422億円	424億円
	営業利益	30億円	34億円	37億円
	【受託・その他事業】			
	営業収益	269億円	673億円	1,101億円
	営業費用	272億円	669億円	1,102億円
	営業利益	▲2億円	4億円	▲1億円
	【関連事業計】			
	営業収益	722億円	1,130億円	1,562億円
	営業費用	694億円	1,091億円	1,526億円
	営業利益	27億円	39億円	36億円
全事業営業利益		51億円	55億円	55億円

中期経営計画 ー財務計数計画ー



【投資計画(連結)】

(税抜)

	H26年度	H27年度	H28年度	累 計
機構資産	3,178億円	3,226億円	2,678億円	9,082億円
会社資産	407億円	264億円	240億円	911億円

※機構資産とは完成後に(独)日本高速道路保有・債務返済機構へ引き渡すこととしている道路資産

財務計数計画については、億円未満の端数を切り捨て表示しているため、合計が合わない場合があります。

中期経営計画 ―主な指標―



業務の領域	カテゴリー	指標項目	H26年度	H27年度	H28年度
高速道路事業	安全・安心	道路構造物保全率(橋梁)★	91.1%	92.7%	93.6%
		道路構造物保全率(舗装)★	96.5%	95.9%	95.9%
		道路総点検完了率※1	62%	100%	—
		死傷事故率★	6.7件/億台キロ	6.7件/億台キロ	6.7件/億台キロ
	お客さま満足度	総合顧客満足度(総合CS(5点満点))★	3.61	3.64	3.67
		本線渋滞損失時間★	712万台・時	712万台・時	712万台・時
	快適性 利便性	路上工事時間★	73時間/km・年	73時間/km・年	73時間/km・年
		冬期営業率	99.7%	99.7%	99.7%
		新規開通延長	92km	52km	0km
		新設JCT数	0箇所	1箇所	1箇所
		新設スマートIC数	1箇所	4箇所	5箇所
関連事業 (SAPA・その他)	満足度	顧客満足度(営業施設のCS)※2	1.0以上	1.0以上	1.0以上
	成長性	SA・PA店舗売上高(飲食物販)	1,006億円	1,034億円	1,042億円
		新規事業プロジェクト・調査件数	概ね10件	概ね10件	概ね10件
会社の経営基盤 (つなぐ価値を 目指す取組み)	環境配慮	道路管理事業におけるCO2排出量	59.9 CO2-t/km	58.9 CO2-t/km	58.5 CO2-t/km
		研究開発費	11.1億円	11.4億円	11.5億円
	成長性	社員1人当たりの研修時間	32時間/人・年	36時間/人・年	40時間/人・年
		インセンティブ助成獲得額	4億円	3億円	3億円
	効率性	年間総実労働時間	2,080時間	2,040時間	2,000時間
		社会貢献 地域連携	CSRレポートに対する評価(5点満点)	4以上	4以上

※1 道路総点検完了率とは、これまで5年以内を基本に実施してきた第三者被害想定箇所の詳細点検を限定的かつ集中的に実施するものの完了率

※2 大型SCや駅ビルと比較し、それらの評価点平均を常に上回るよう設定(弊社店舗の評価平均点/市中店舗の評価平均点)

★印を付したものはアウトカム指標として(独)日本高速道路保有・債務返済機構が公表

中期経営計画・基本方針別の計画

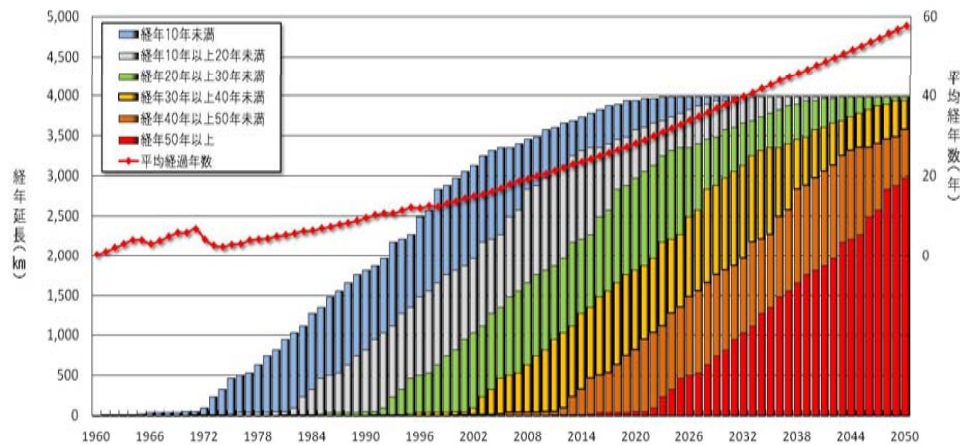
基本方針1 技術革新により道路の高度化を進め、より安全・安心、快適・便利な高速道路を最小のコストで実現する

NEXCO

24時間365日、安全で安心できる高速道路空間を提供し、お客さまの信頼を得ることに努めます

■資産健全性の確保

・当社が維持管理する高速道路は、平成25年度末時点において約3,700kmとなっています。この内、開通後30年以上を経過した道路が約3割を占めていますが、平成28年度末には、その割合は更に約300km増加し約4割を占めることとなります。



▲高速道路の経過年数の推移

・高速道路の着実な整備が進む中、道路資産の老朽化も進んでいます。橋梁や舗装などは、きめ細かく現状を把握し、中長期的な劣化の予測や適切な対策工法と対策時期の選定を行いながら、効果的・計画的に補修工事を実施し、道路資産の健全性確保に努めていきます。

○舗装の老朽化対策

・舗装路面の補修は、路面のわだち量やひび割れなどの状況を定量的に把握し、舗装路面の長寿命化を考慮した補修計画により道路資産の健全性を確保します。



▲舗装補修

○橋梁の老朽化対策

・橋梁の補修は、長寿命化とライフサイクルコストの最小化を考慮した補修計画により道路資産の健全性を確保します。



▲橋梁はく落補修

○施設設備の老朽化対策

・設備の経年劣化に伴う故障統計解析結果等に基づき、施設の延命化を考慮した更新計画により施設設備の健全性を確保します。



▲道路情報板更新

▼今中計における補修予定数量

項目	H26年度	H27年度	H28年度	備考
舗装補修	約420	約470	約560	車線・km
橋梁補修	約100	約120	約130	橋梁数
施設補修	約1,900	約800	約700	設備数

基本方針1 技術革新により道路の高度化を進め、より安全・安心、快適・便利な高速道路を最小のコストで実現する

NEXCO

■SMH(スマートメンテナンスハイウェイ)構想※の推進

・道路資産健全性の確保には、正確に現状を把握する点検が重要であり、最新の技術により効率的かつ精度の高い調査・分析を行っています。

【点検技術の導入事例】



▲路面性状測定
高速走行でレーザー光線を投射し、路面のわだち掘れ・平坦性を調査



▲覆工コンクリート表面撮影
高精細デジタルビデオカメラにより高速走行で撮影し、覆工のひび割れ等を調査



▲施設多機能測定
ETO設備・ハイウェイラジオ等の電界強度、道路照明等の照度等を測定

○SMH構想の実現に向けた計画策定等

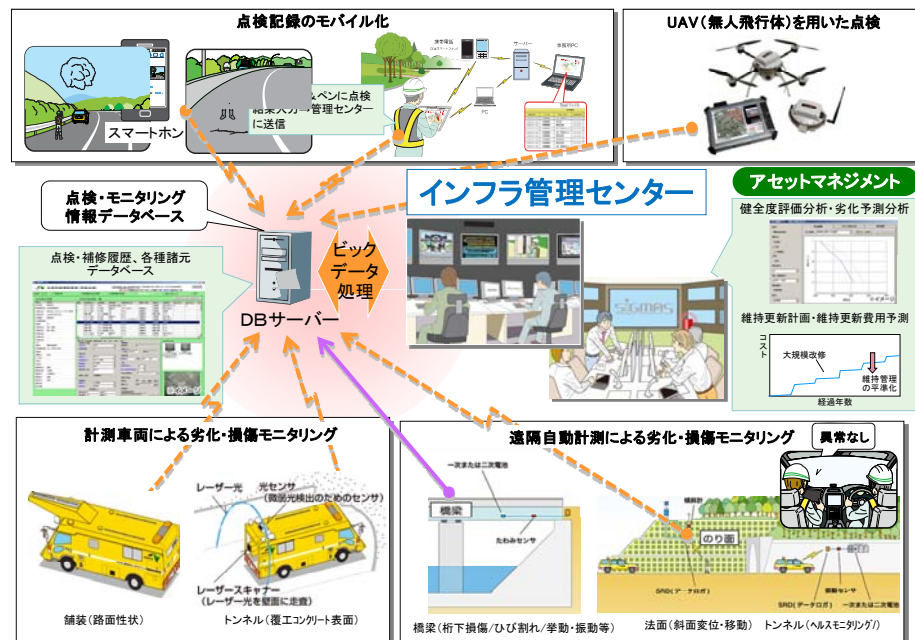
- ・インフラ管理センター(仮称)の業務要件を策定し、試行導入を目指します。
- ・SMHモデル区間にて試行導入を目指します。

※SMH構想とは

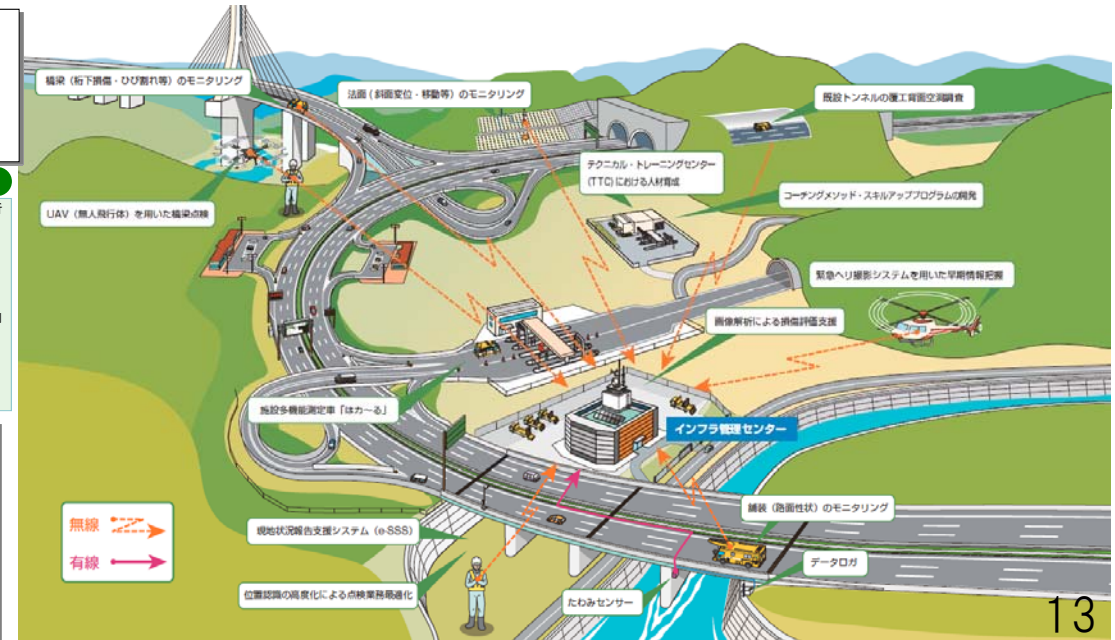
長期的な道路インフラの安全・安心の確保に向け、ICT技術の導入や機械化等を行い、これらが技術者と融合した総合的なメンテナンス体制を構築します。これにより、維持管理・更新の効率化や高度化、着実化の実現を目指します。



▼主なICT・連携イメージ図



▼SMH構想全体イメージ図



基本方針1 技術革新により道路の高度化を進め、より安全・安心、快適・便利な高速道路を最小のコストで実現する

NEXCO

■大規模更新・大規模修繕計画の具体化

○大規模更新・大規模修繕計画の策定

・道路構造物における老朽化の進展並びに厳しい使用環境により著しい変状の発生が顕在化しており、従来の修繕のみでは、致命的な損傷に進展し、通行止め等が発生する恐れがあります。

▼大規模更新予定の代表事例

福島須川橋(福島県)

【東北自動車道(上り線) 福島飯坂IC～福島西IC:橋長88m、昭和50年開通】



・高速道路ネットワークを将来にわたって持続可能で的確な維持管理・更新を行うため、高速道路資産の長期保全及び更新のあり方について、有識者委員会において技術的見地より基本的な方策の検討を行いました。

・委員会での検討を踏まえ、構造物毎の点検結果や、これまでの補修履歴や変状から対策を検討し、大規模更新や大規模修繕を実施すべき箇所を選定し、その事業規模を概略計画として公表しました。

・今後、大規模更新・大規模修繕の着実な実施に取り組んでいきます。

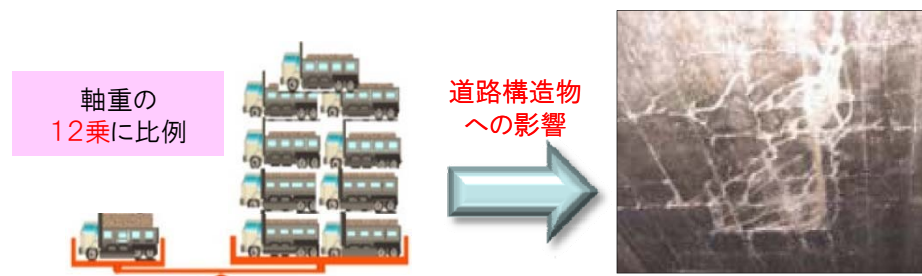


▲大規模更新(床版取替え)イメージ

■車両制限令違反抑制に向けた新たな取組み

○車両制限令違反抑制に向けた検討・試行

・車両制限令違反(重量超過等)車両が道路構造物に与える影響は深刻です。例えば大型車両1台が、軸重10トンの基準よりも2トン超過した場合は、橋に対して約9台分の影響があります。



▲違反車両(軸重2t超過)がRC床版に与える影響

▲床版の損傷状況(橋の裏側)

・当社では、取締のために車両制限令等取締隊を組織し、日々、違反車両の取締に努めています。(1年間で約1,500箇所、約4,500時間、検問台数約11,000台)

・当社では、現行の取締のさらなる強化を図るとともに、新たな取締方法や、抑止対策を検討・試行し、車両制限令違反車両の抑制を目指すとともに、道路資産の劣化抑制を目指します。



▲超重量車両



▲車両制限令等取締隊

基本方針1 技術革新により道路の高度化を進め、より安全・安心、快適・便利な高速道路を最小のコストで実現する

NEXCO

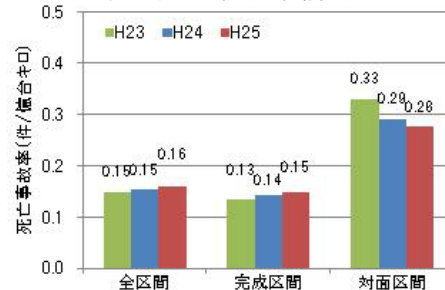
■本線事故の削減

- ・当社における死傷事故率は日本全国の道路の約1/14です。
(H24年 日本全国の道路; 93.7(件/億台キロ)
NEXCO東日本; 6.9(件/億台キロ)
(※警察庁データを元に算出。)

○対面通行区間の事故削減

- ・対面通行区間における死亡事故率は、完成区間に比べ高い傾向であり、反対車線への飛び出しによる事故がその大半を占めます。

▼死亡事故率の比較(会社調べ)



- ・対面通行区間における事故対策として、凹凸型路面標示工や車線の分離などの対策を実施し死傷事故の削減に取り組めます。



▲凹凸型路面標示



▲車線の分離(幅狭両面型ガードレール)

▼今中計における完成予定箇所

対 策	計画箇所	延 長	完成予定時期
車線分離化	道東道(むかわ穂別～占冠)	約1.6km	平成26年度
	秋田道(北上西～横手)	約3.0km	平成28年度

○夜間などの安全対策

- ・視認性が低下する夜間の事故防止を目的として、凹凸型路面標示や視線誘導強化などを実施します。



▲高視認性区画線

○逆走防止対策の取組み

- ・逆走車両の事故があるため、インターチェンジのランプなどへの矢印路面標示や注意喚起看板の整備に加え、新たな技術の導入も踏まえた、効果的な逆走防止対策に取り組めます。



▲逆走防止装置

○人等の立入防止対策の取組み

- ・本線への人等の立入通報件数が増加傾向にあるため、立入禁止標示などの対策に取り組めます。



▲立入禁止標示

○体系的な交通安全啓発活動の推進

- ・現場における交通安全啓発活動と並行し、全社的なマナーアップキャンペーンの展開・強化(「HEARTFUL HIGHWAY」・マナーティの効果的活用による広報)及び各種交通安全教室等を開催します。



▲マナー啓発広報ポスター



▲高齢者交通安全講習会

基本方針1 技術革新により道路の高度化を進め、より安全・安心、快適・便利な高速道路を最小のコストで実現する

NEXCO

お客さまニーズや利用スタイルに応じた快適さと利便性を感じる質の高いサービスを追求します

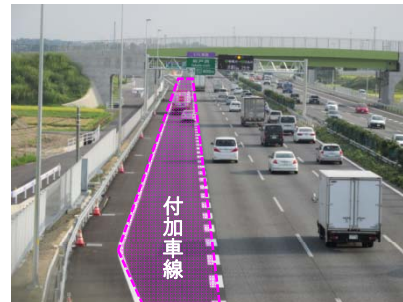
■ 定時性・確実性の確保

○ 渋滞の削減

- ・当社管内では交通集中による渋滞損失時間が全体の約7割を占めています。
- ・渋滞損失時間の大きいボトルネック箇所から現地状況を踏まえ、付加車線等の整備を推進します。



▲京葉道路 穴川IC付近の渋滞状況



▲関越道 高坂SA付近の付加車線

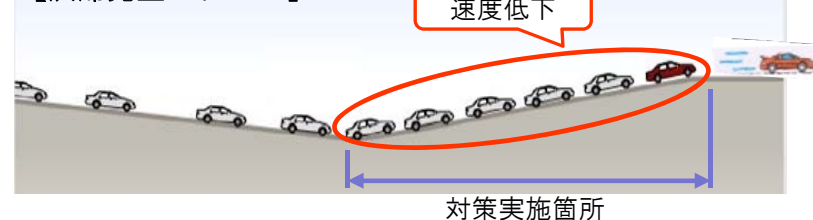
▼ 今中計における完成予定箇所

道路名	区間	延長	完成予定時期
京葉道路	穴川IC～貝塚IC間(上)	約1km	平成26年度
京葉道路	穴川IC～貝塚IC間(下)	約2km	平成27年度
東北道	岩舟JCT～栃木IC間(下)	約5km	平成27年度
関越道	花園IC	約1km	平成28年度
関越道	花園IC	約1km	平成28年度

○ ソフト対策による渋滞軽減の取組み

- ・交通集中を原因とする渋滞のうち、上り坂及びサグ部での渋滞が約7割を占めています。
- ・上り坂部での無意識の速度低下や車間距離が短くなった後続の車両がブレーキを踏み、減速波が後続車両に伝播することにより渋滞が発生しています。

【渋滞発生イメージ】



- ・上り坂やサグ部に「ペースメーカー」を設置しドライバーの無意識の速度低下を軽減させ、渋滞発生の遅延及び渋滞中の速度向上を図ります。



※「ペースメーカー」とは、道路脇に一定間隔で設置したLED発光パネルのことです。LED発光パネルを進行方向に流れるように点滅させることにより、ドライバーが光の走行に無意識に追従し速度低下を軽減させる効果を期待するものです。



基本方針1 技術革新により道路の高度化を進め、より安全・安心、快適・便利な高速道路を最小のコストで実現する

NEXCO

■情報提供の多様化

○経路選択支援情報の充実など

・環状道路等の供用に伴う道路のネットワーク化に際し、道路交通情報・ルート選択支援として、広域情報板、図形情報板やハイウェイラジオ、休憩施設での交通モニターの拡充・更新を実施します。



▲図形情報板



▲広域情報板



▲交通モニター

・3環状、隣接放射道路を含む図形情報板、所要時間板による情報提供の充実を図ります。

【ネットワーク化に伴うルート選択支援】



▲図形情報板



▲図形所要時間板

川口JCTまで 関越・外環ルート	40分
川口JCTまで 圏央・東北ルート	35分
八王子JCTまで	30分

▲所要時間板

▼今中計における完成予定箇所

対策	道路名	箇所数	完成予定時期
広域情報板設備	圏央道 他3	9	平成27年度
図形情報板設備	東北道 他2	3	平成27年度
所要時間板設備	東北道 他3	7	平成26年度
ハイウェイラジオ設備	圏央道	4	平成27年度
交通モニター	圏央道	3	平成26年度

・道路プローブデータを活用した渋滞情報の自動検知及び情報提供に向けた検討・検証を進め、提供システムやHPなどの充実を推進します。



▲スマートフォン・タブレットによる情報提供事例

○冬道の情報提供、交通安全啓発活動の推進

・高速道路情報サイトによるリアルタイムの気象状況情報等の提供や各種イベントの開催、ポスター・チラシなどによる安全啓発活動を行うなど、積極的に冬期の交通安全に取り組めます。



▲高速道路情報サイトでの情報提供

○2020東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた計画策定

・東京でのオリンピック及びパラリンピックの開催に向けて、関係機関との調整その他諸課題への対応に取り組めます。

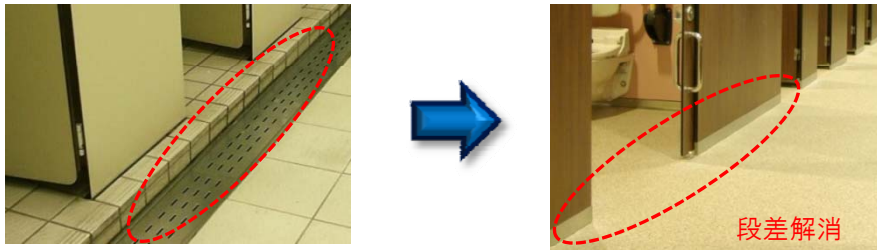
基本方針1 技術革新により道路の高度化を進め、より安全・安心、快適・便利な高速道路を最小のコストで実現する

NEXCO

■ 休憩施設の利便性向上

○ユニバーサル化の推進

- ・ユニバーサルデザインを取り入れ、誰もが安心して快適に利用できる休憩施設を整備していきます。
- ・トイレ内床の段差を解消し、平成27年度末までにトイレ内床の段差解消100%を目指します。



- ・小さな男の子も利用可能な子供用小便器やおむつ替えができるベビーシートを備えた大型ブースを整備します。



▲子供用小便器



▲ベビーシート

- ・おむつ替え等が必要な大人の方が利用できるベッドや幼児が利用できる便座を整備します。



▲多機能トイレ



▲幼児用トイレ

○SA・PA大規模改築

- ・守谷SA(下り線)等のリニューアル(バリアフリー化)老朽化や混雑対策と併せ、施設配置の見直しや段差を解消させ、利便性や快適性を向上させます。

■ 料金関連サービスの展開

○多様な企画割引の実施

- ・高速道路の利用の促進・定着を図るため、地元自治体などと連携し、旅行トータルでのお客さまニーズを捉えた付加価値の提供を目指します。
- ・地元の観光協会や観光施設等と連携し、地域の観光シーズンなどに高速道路の料金がお得になる企画割引を展開します。



▲平成25年度の企画割引の事例



○料金収受サービスの向上

- ・料金所におけるお客さまの満足度の向上を目指します。
- ・接客マナー研修や収受コンテストを実施し、料金所係員の更なる接客マナーの向上を図ります。



▲接客マナー研修



▲収受コンテスト

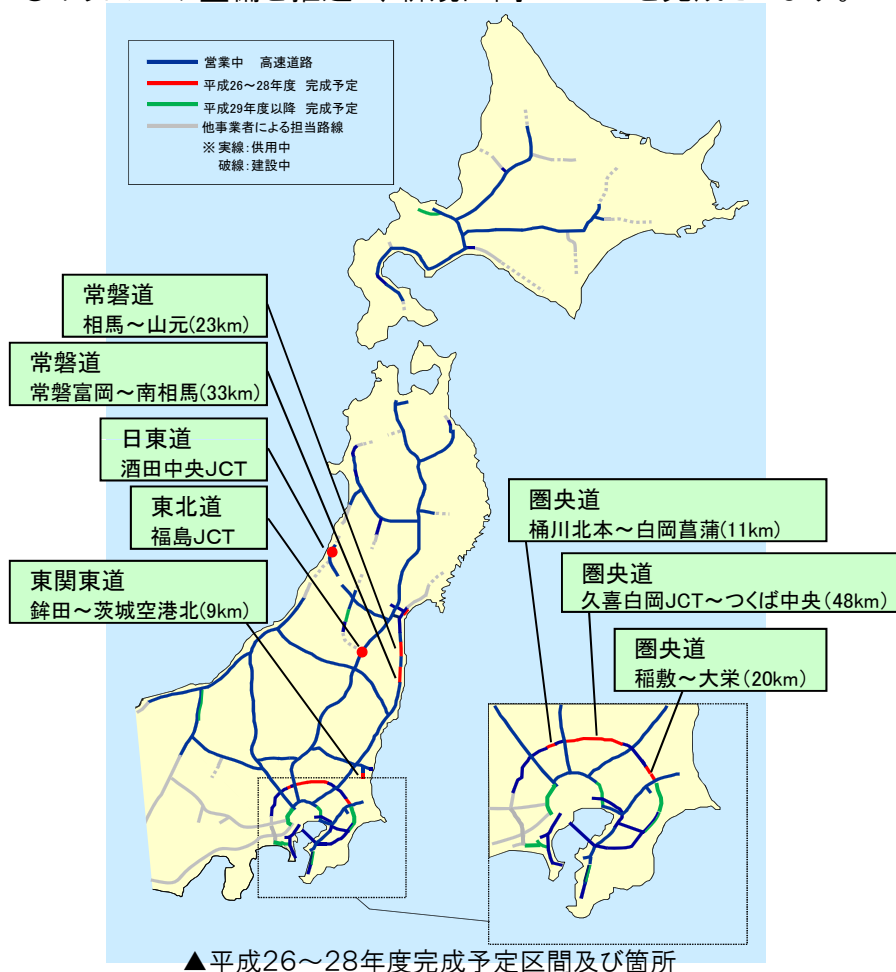
基本方針1 技術革新により道路の高度化を進め、より安全・安心、快適・便利な高速道路を最小のコストで実現する

NEXCO

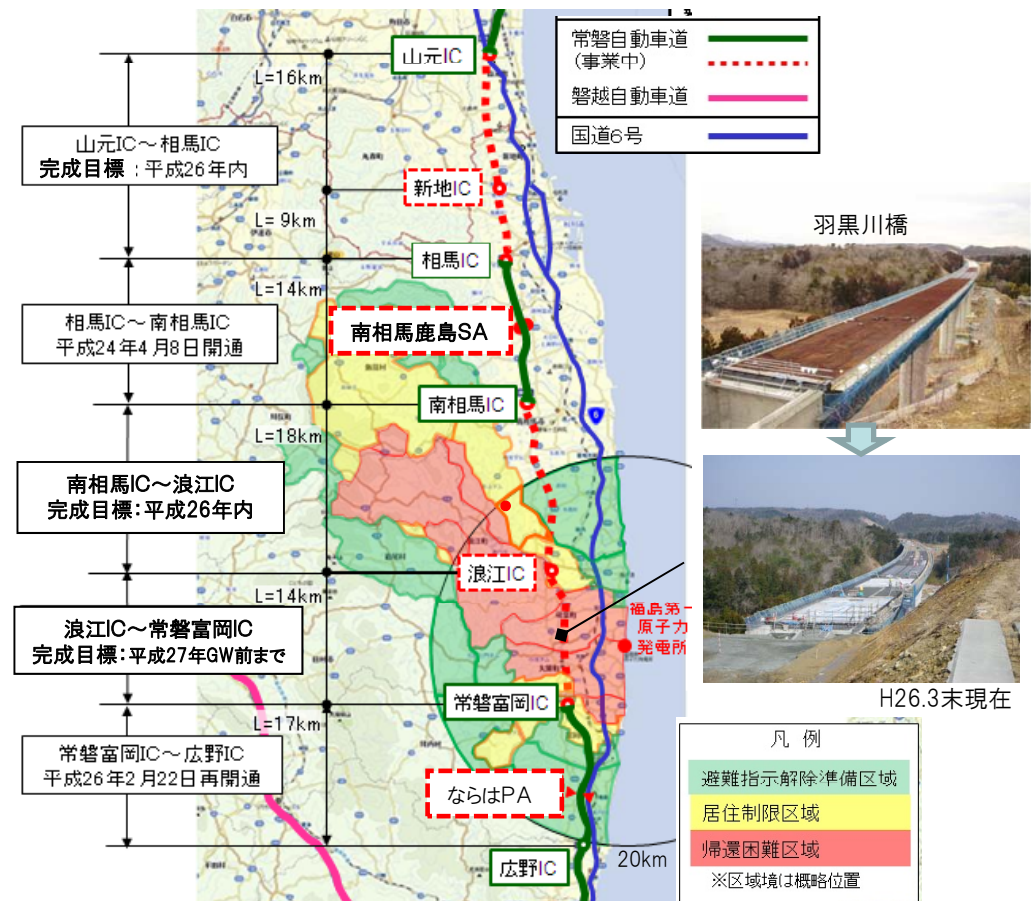
プロジェクトマネジメント力を駆使して、経営資源を最大限有効に活用しながら、着実に建設事業を進めます

■ 着実なネットワーク整備の推進

○ネットワーク整備を推進し、新規区間144kmを完成させます。



○完成目標時期までに常磐道を全線完成させ、東北復興に貢献します。

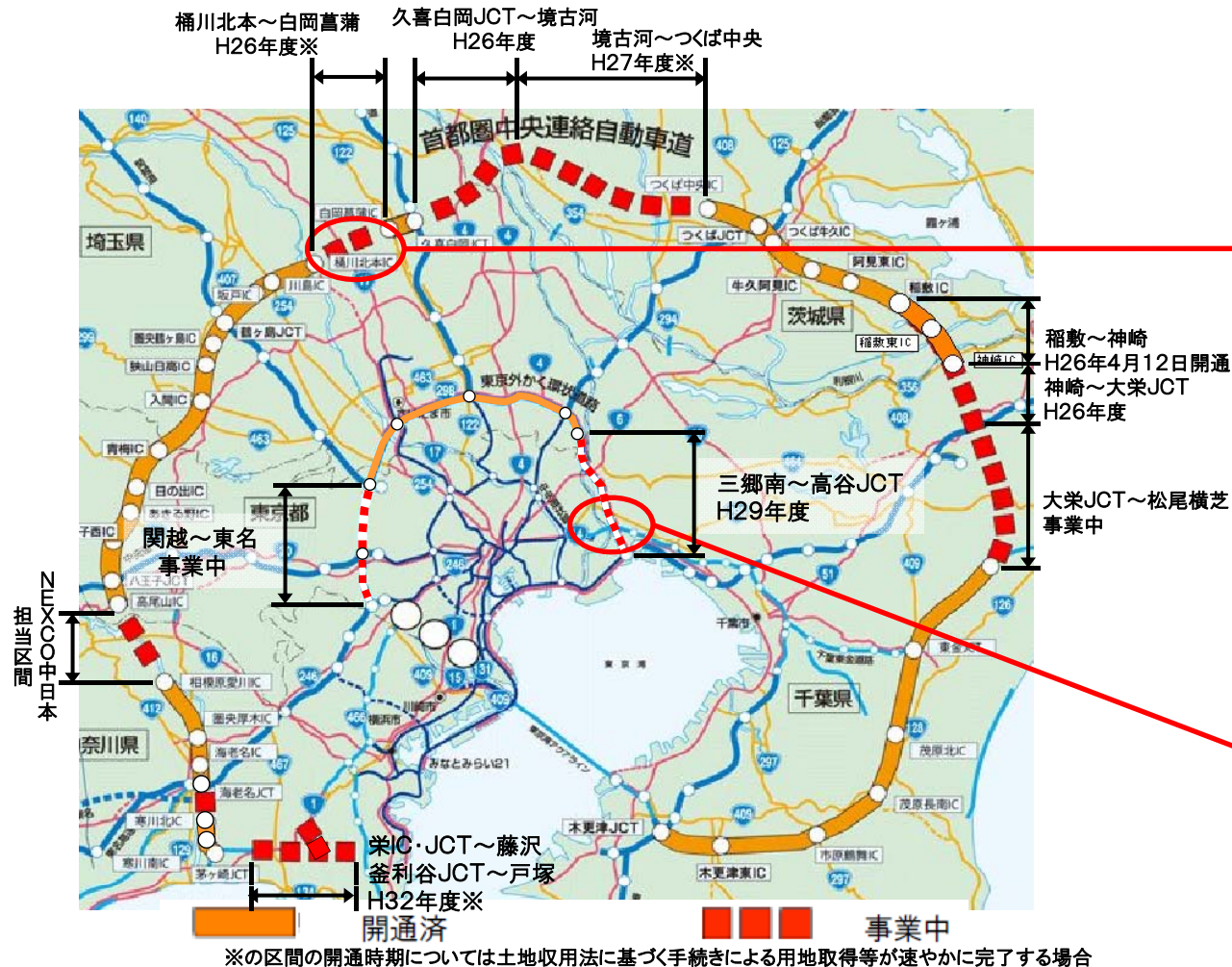


基本方針1 技術革新により道路の高度化を進め、より安全・安心、快適・便利な高速道路を最小のコストで実現する

NEXCO

○首都圏高速道路ネットワークの整備

- ・共同事業者である国と連携し、東京外環・圏央道の整備を推進します。
- ・新規完成延長[圏央道 79km]



▼圏央道(桶川北本～白岡菖蒲)の建設状況



桶川第2高架橋の施工

▼東京外環(三郷南～高谷JCT)の建設状況



京葉ジャンクション部の施工

▲首都圏高速道路ネットワークの整備状況

基本方針1 技術革新により道路の高度化を進め、より安全・安心、快適・便利な高速道路を最小のコストで実現する

NEXCO

■より快適な道路空間創出のための機能強化

○高速道路の更なる利便性向上を目指し、SA・PA・追加ICの整備を推進します。

- ・SA・PAの整備
- ・追加IC(スマートIC)の整備

： 4箇所完成

：10箇所完成



▲東関東道 酒々井IC



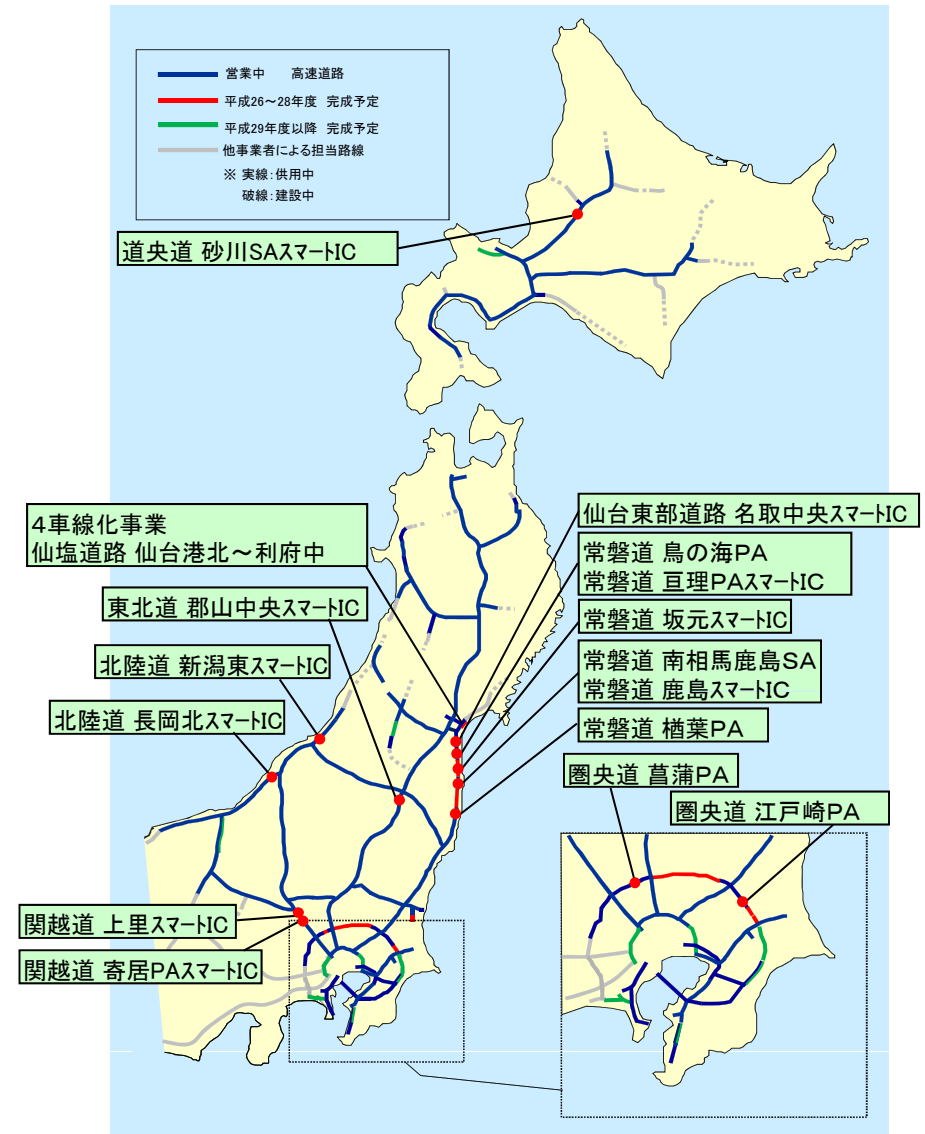
▲東北道 佐野SAスマートIC

○暫定2車線区間における渋滞の緩和を目指し、4車線化事業を推進します。

▼混雑状況(暫定2車線)



上信越道(妙高高原～中郷)



▲平成26～28年度完成予定箇所(スマートIC名は仮称)

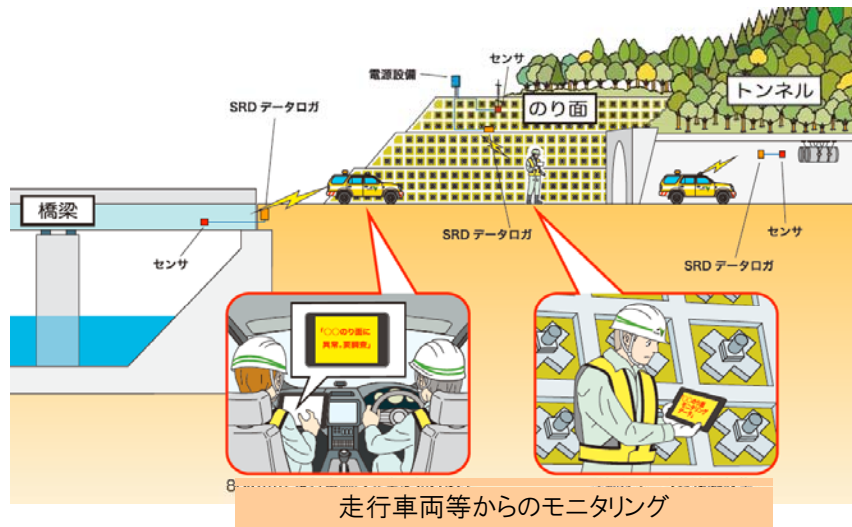
基本方針1 技術革新により道路の高度化を進め、より安全・安心、快適・便利な高速道路を最小のコストで実現する

NEXCO

最先端の技術を取り入れ、維持管理し易く、より安全で高質かつ誰にでも使い易い高速道路空間を創出します

■維持管理しやすく長期安全性の高い道路空間の創出

- ITSスポットの着実な整備やICTの活用による構造物モニタリングに取り組みます。
- 高品質なコンクリートにより構造物の耐久性を向上するなど、維持管理を考えた道路づくりに取り組みます。
- 2重の安全対策(フェールセーフ)などの道路附属物の安全強化に取り組みます。



▲ICTを活用したモニタリング技術の事例

■自然災害に強く、信頼される道路空間の創出

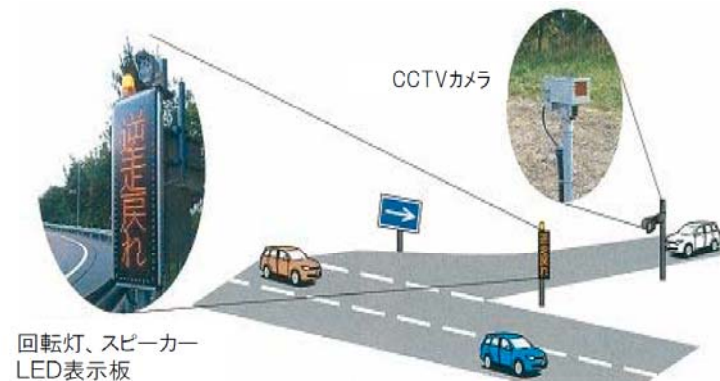
- 構造物前後の盛土段差対策など地震に強い道路づくりに取り組みます。
- スノーシェルターの設置や異常降雨に対する排水機能の強化など異常気象に強い道路づくりに取り組みます。



▲スノーシェルターの事例

■全てのお客さまが安心して利用できる道路空間の創出

- 休憩施設におけるバリアフリー施設や外国人向け情報提供の充実、効果的な逆走対策などに取り組みます。



▲逆走対策の事例

基本方針1 技術革新により道路の高度化を進め、より安全・安心、快適・便利な高速道路を最小のコストで実現する

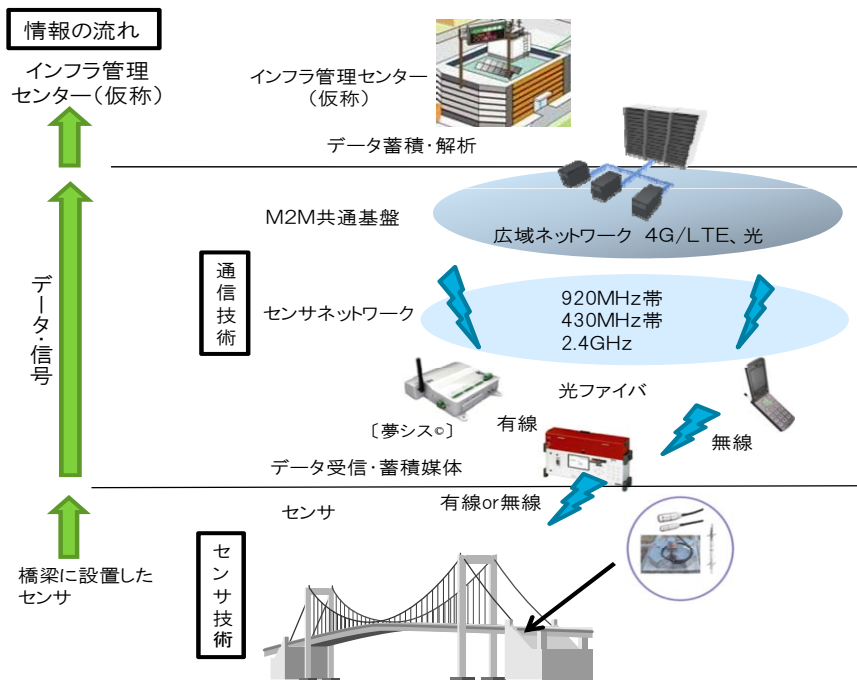
NEXCO

安全を最優先とした技術開発を推進します

■SMH構想の実現

○ICTを活用したモニタリング技術

- ・点検データの分析や現場での試行を通じ、モニタリング箇所やセンサ・通信技術の要件を設定します。

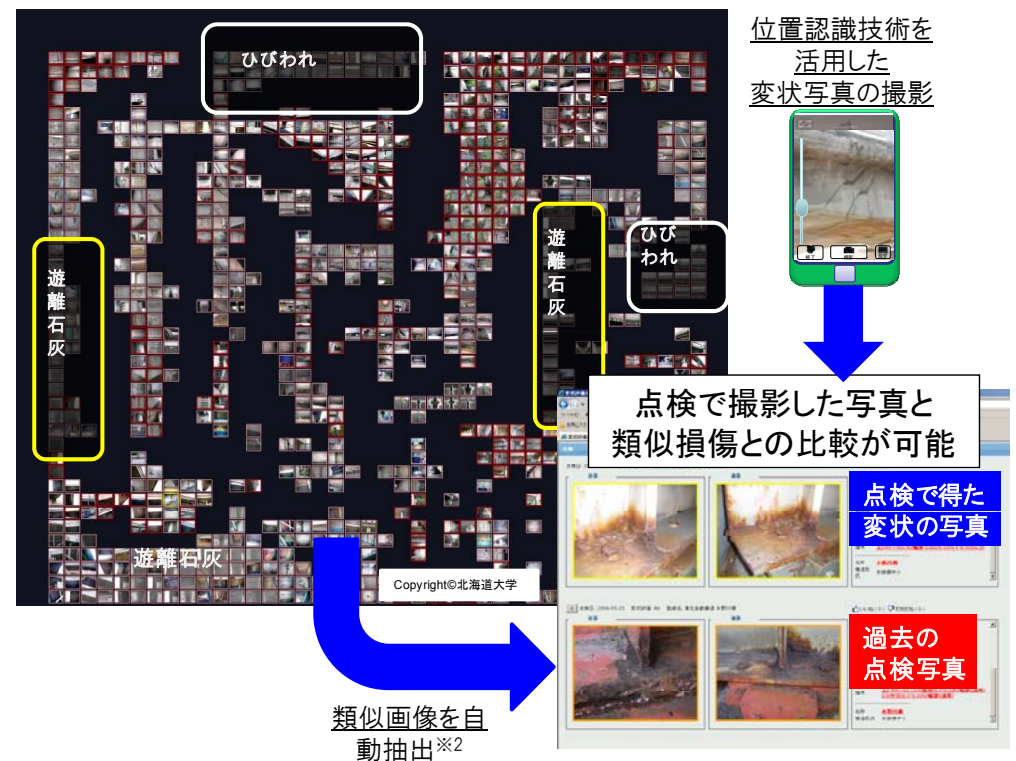


▲モニタリング技術の開発・活用の流れ

○点検作業の機械化・損傷の定量化に向けた技術開発

- ・大容量画像解析技術※1と位置認識技術を活用した「橋梁点検支援システム」の現地への試行導入を行います。

▼評価支援システム※2(大容量画像解析技術)



※1 特許4759745を含む6件

発明者 北海道大学大学院情報科学研究科 長谷山美紀教授

※2 特願2013-234864

基本方針1 技術革新により道路の高度化を進め、より安全・安心、快適・便利な高速道路を最小のコストで実現する

NEXCO

居心地の良い時間と空間を提供できるSA・PAを展開します

SA・PA事業では、基本的なサービスの向上を目指す「礎づくり」と、地域の特徴などを活かした個性的で魅力的な店舗作りを目指す「華づくり」を基本コンセプトとして、SA・PAのレベルアップに取り組んでいます。

“Pasar(パサール)”をはじめ、“ドラマチックエリア”、“テーマ型エリア”といったこれまでのイメージを刷新したカテゴリーのエリアなどを展開しています。



■Pasarを積極的に展開

○交通量の多い首都圏近郊のエリアにおいて、多くのお客さまに快適にご利用いただけるよう、複数の有名テナントを導入した『Pasar』を展開します。



H25年度末 5箇所

Pasar幕張④⑦、Pasar羽生⑦
Pasar三芳④、Pasar守谷④

計画期間内に

1箇所 開業
2箇所 事業着手



▲Pasar守谷(常磐道 守谷SA上り線) 平成26年3月19日開業



『Pasar』とは
「パーキングエリア」の“PA”、「サービスエリア」の“SA”、「リラクゼーション(Relaxation)」の“R”を組合せたものであり、インドネシア語で「市場」を意味します。SA・PAの新しい形として、「旅の途中に立ち寄ってほっと一息つける場所」、「旅の途中で楽しく過ごせるにぎわいの場」をお客さまに提案していきたいとの思いを込めています。

基本方針1 技術革新により道路の高度化を進め、より安全・安心、快適・便利な高速道路を最小のコストで実現する

NEXCO

■ドラマチックエリアを積極的に展開

○地域の中核となるエリアに、テナントと連携し、「地域性」「旅の楽しみ」を凝縮した旅のドラマを演出する「ドラマチックエリア」を展開します。

H25年度末
12箇所

計画期間内に
5箇所 開業(磐梯山⑦など)

中期経営計画
期間末
17箇所



(外観)



(ショップ)

▲「ドラマチックエリア市原(下り線)」(市原SA 下り線) 平成26年3月26日開業



(外観)



(フードコート)

▲「ドラマチックエリア姨捨(上り線)」(姨捨SA 上り線) 平成26年3月29日開業

■快適性を追求したリニューアルの実施

○よりご利用しやすいエリアづくりを目指し、計画的なリニューアルを実施します。

計画期間内に 年間5箇所程度 リニューアル



(外観) Before



(外観) After



(ショップ) Before



(ショップ) After

▲名立谷浜SA(上り線) 平成26年3月28日リニューアルオープン

基本方針2 企業活動を通じて地域社会への貢献を目指すとともに環境保全への取組みを進める

NEXCO

雪・地震の際には地域生活を支えるなど、高速道路の管理事業を通じ社会的使命と責任を果たします

■安全な冬期交通の確保

・平成26年2月の記録的な大雪により、当社管内の高速道路は、長期間にわたる通行止めを余儀なくされる状況となりました。



▲車両滞留状況(第三京浜)

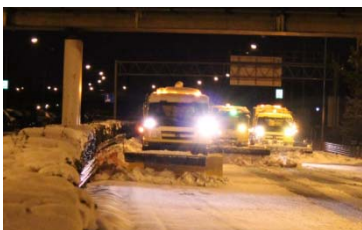


▲降雪状況(外環道)



▲堆雪状況(上信越道)

・今回の大雪を踏まえ、『首都圏を中心とした大雪対策プロジェクト』を立ち上げ、今回の対応の検証を行い、除雪機械の増車や応援体制の構築等を行っていきます。



▲除雪作業状況



▲拡幅除雪作業状況



▲路肩排雪作業状況

・当社では、今後も通行止めの期間を短縮し、「安全・安心」な高速道路空間を提供できるように努力していきます。

○防雪柵等の設置

・地吹雪等による視界不良が頻発する区間では、視認性を確保するために、防雪柵を設置します。また、雪氷作業の迅速化を図るため、雪氷Uターン路の整備を行います。



▲防雪柵



▲雪氷Uターン路

▼今中計における完成予定箇所

対策内容	主な対策箇所	整備延長
防雪柵	降雪に伴う視程障害多発箇所	約5km
雪氷Uターン路	東北自動車道(仙台南)他	3箇所

○GPSを利用した車両運行システム

・新技術を積極的に開発・導入し、更なる雪氷作業の効率化を目指します。



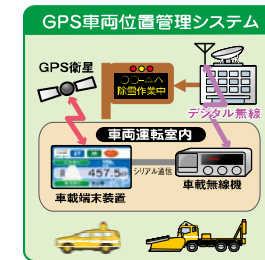
▲路面情報測定車

路温計、気温計、塩分濃度計等の各種センサーを取付けた車両により巡回し、路面状況をリアルタイムにデータ収集する



▲雪氷車両運行管理システム

自営デジタル無線とGPSを活用することにより、車両位置リアルタイムに把握し、雪氷作業を迅速かつ効率的に作業指示を行うための支援システム



基本方針2 企業活動を通じて地域社会への貢献を目指すとともに環境保全への取組みを進める

NEXCO

■巨大地震への対策強化

○防災拠点の整備

- ・守谷SAモデル事業の整備結果及び、自衛隊等の進出部隊や消防庁、DMAT(災害派遣医療チーム)等の救命・救急活動を行う関係機関との検討内容を踏まえ、関係省庁への説明調整を行い、休憩施設防災拠点化の全体計画を策定し、その他SA・PAへの防災拠点化に着手します。
- ・道路管理会社の社会的責任として、高速道路を活用した救命救急活動を最大限支援するため、関係機関と合同防災訓練や連絡会議などを行い、引き続き緊密な連携体制を構築してきます。

▼守谷SA防災機能イメージ図



▲防災拠点運営訓練状況



▲首都直下地震被災地への進出イメージ

基本方針2 企業活動を通じて地域社会への貢献を目指すとともに環境保全への取組みを進める

NEXCO

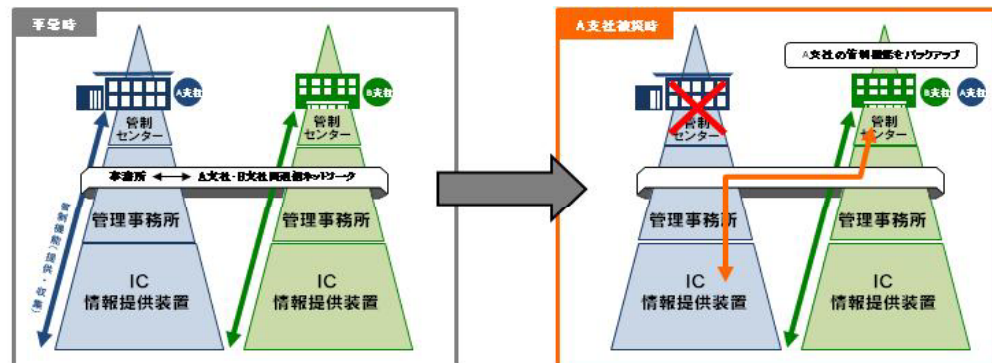
○道路管制センターの地域間バックアップ

・当社では、各地域拠点毎(北海道・東北・関東・新潟)に道路管制センターを設置し、高速道路上の事故・故障車・落下物等の情報収集や通行止・渋滞等の情報提供、道路上諸設備の運転監視を実施しています。



▲新潟道路管制センターの執務室内

・巨大地震発生の際に、道路管制センターの設備が機能停止した場合に、広域かつ長時間の通行止めが生じるリスクを回避するため、各道路管制センターの地域間バックアップを行うための機器整備を行い、他拠点から道路管制業務が実施できる体制を構築します。



▲地域間バックアップイメージ

・東日本大震災時に高速道路上へ避難された方が多数いることから、大津波発生時に周辺に避難する場所が無い地域について、高速道路を津波避難場所として活用するため、地域との連携を図り対応していきます。



▲津波避難階段の設置事例(仙台東部道路)



・津波被害想定に基づき、料金収受員等の安全確保の為、津波被害の予想される料金所において、避難対策を行います。



▲料金所の津波避難対策(仙台港IC)



▲東日本大震災における料金所の津波被害状況

基本方針2 企業活動を通じて地域社会への貢献を目指すとともに環境保全への取組みを進める

NEXCO

高速道路整備やコンサルティング業務等を通じて地域社会へ貢献します

■コンサルティング業務等を通じた地域社会への貢献

○事業促進PPP及び技術支援業務を通じ、地域に貢献します。

【事業促進PPP】

・復興道路の事業促進を目的とした「三陸沿岸道路事業監理業務」に参画して、三陸沿岸地域の震災復興に貢献しています。



▲地元説明対応



▲気仙沼橋梁技術検討総括委員会運営サポート

【技術支援業務】

・直轄整備区間の「技術支援業務」に参画して、工事の監理、関係機関との協議補助業務などを行い、高速道路ネットワーク整備の事業推進に貢献しています。



▲東北中央自動車道(福島JCT～米沢IC)



▲現場立会確認

○自治体等のインフラ管理の技術支援

・国や地方自治体へ当社の技術力を活用した技術支援を行います。



▲跨道橋(OV)点検業務



▲可変標識装置保守点検



▲道路施設保守管理業務

基本方針2 企業活動を通じて地域社会への貢献を目指すとともに環境保全への取組みを進める

NEXCO

地球温暖化防止、循環型社会の形成、環境負荷の低減に資する取組みを推進します

■地球温暖化防止に資する取組みの推進

○地球温暖化防止への貢献

(道路管理)

日々の道路管理で用いる電気や燃料などから発生するCO₂削減のため、低エネルギー仕様の機器への更新や効率的な機器・機材の運用を実施します。

・道路管理業務から発生するCO₂排出量

平成24年度:61.0トン-CO₂/km⇒平成28年度: 58.5トン-CO₂/km

(道路建設)

盛土のり面の樹林化を進めます。

・高速道路の樹林化面積

平成28年度末:約3,800ha、CO₂吸収・固定効果は、年間約4万トンと推定

(オフィス)

オフィスで使用するエネルギー使用量を平成21年度(原油換算:約6,100kℓ)を基準に平成26年度には5%以上削減し、省エネルギー対策を継続的に実施します。



▲ (従来)高圧ナトリウムランプ



▲ (現在)Hf(高周波)蛍光ランプ



▲ LEDによるトンネル照明



▲盛土のり面の樹林化形成



▲樹林形成された盛土のり面

基本方針2 企業活動を通じて地域社会への貢献を目指すとともに環境保全への取組を進める

NEXCO

■循環型社会の形成に資する取組みの推進

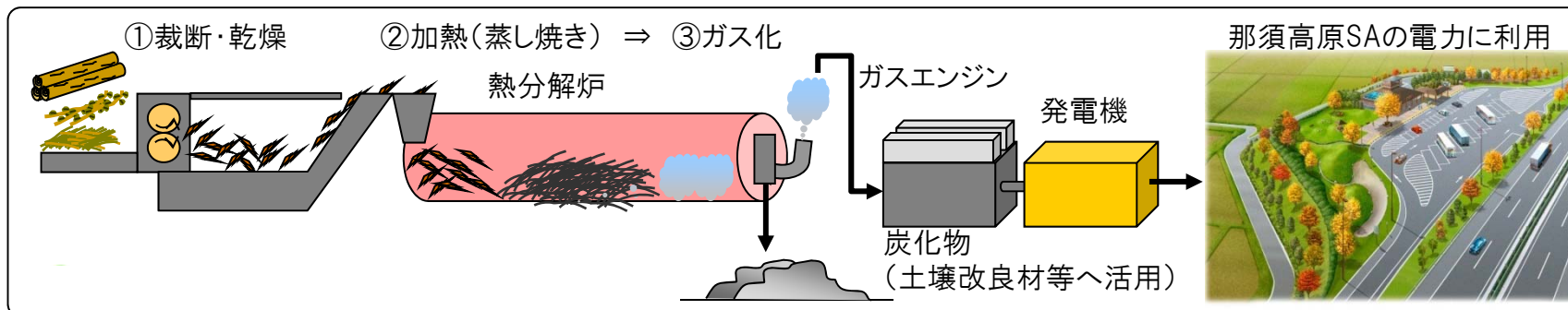
○循環型社会形成に向けた活動を推進します。

- ・高速道路の草刈や樹木剪定からの植物発生材を活用したバイオマスガス発電を実用化します。
- ・建設副産物のリサイクルを推進します。

▼那須高原SA(上)バイオマスガス発電プラント



▼バイオマスガス発電の流れ(概念図)



基本方針2 企業活動を通じて地域社会への貢献を目指すとともに環境保全への取組を進める

NEXCO

■環境負荷の低減に資する取組みの推進

○自然環境に及ぼす影響を低減します。

・自然環境と共存共生する高速道路を目指し、「自然にやさしい道づくり(エコロード)」の取組を進めます。

【自然環境保全の事例】



▲既存林の保全



▲貴重種の移植 カントウアオイの移植作業(左)と活着状況(右)



▲猛禽類の保護



▲ビオトープの保全

【動物侵入防止対策の事例】



▲大型動物の侵入対策



▲中小動物の侵入対策 (下部閉塞)



▲鳥類の飛翔誘導

基本方針2 企業活動を通じて地域社会への貢献を目指すとともに環境保全への取り組みを進める

NEXCO

地域・お客さまとの「つながり」を形にできる細やかな施策を展開します

■ 地域と連携し、地域の「ショーウィンドウ」化を推進

○地元の有名商品や隠れた名産品などの積極的な導入・販売を推進します。



▲地域産品応援フェア



○地域や地元産業と連携し、地域社会に貢献します。



▲守谷SAやさい村(守谷SA上り線)



▲E-NEXCO野菜市場

■ お客さまにSA・PAの魅力を発信

○SA・PAの魅力発信につながる施策を実施し、お客さま満足度の向上に努めます。



▲NEXCO東日本 どんぶり王座決定戦!



「茨城を食べつくそう」栄光の丼
常磐道 友部SA(上り線)



▲NEXCO東日本 接客コンテスト



基本方針2 企業活動を通じて地域社会への貢献を目指すとともに環境保全への取り組みを進める

NEXCO

あらゆるステークホルダーに貢献するCSR経営を推進します

■CSR活動の推進

○経営理念及び経営ビジョンの実現を目指して、「地域をつなぎ、地域とつながる」をキーワードに、CSRの取り組みを進めます。

■ステークホルダーへの情報発信

○CSRレポートやWebサイトを活用し、当社のCSR活動の発信に努めます。



▲高速道路事業を活かした社会貢献活動
(小学校への出前授業)

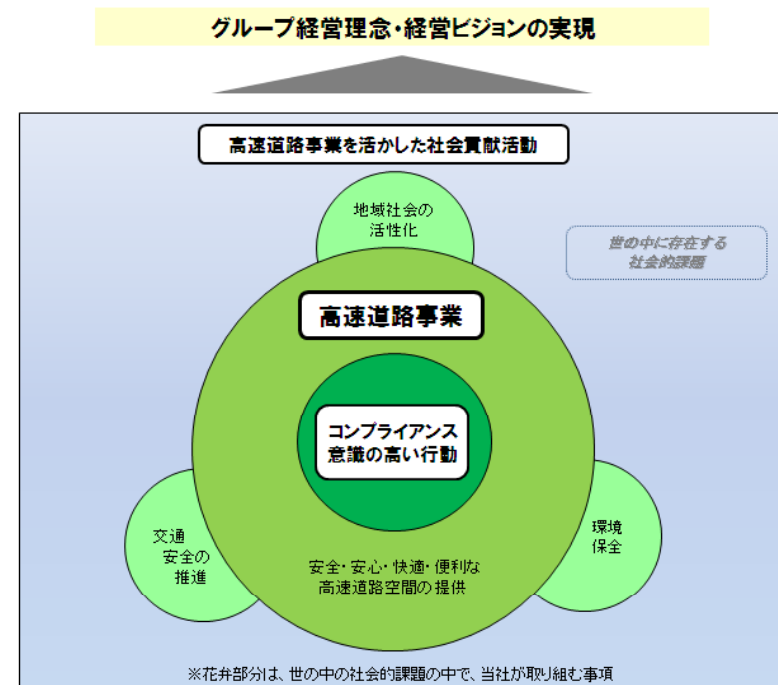


▲CSRレポートの発行

▼NEXCO東日本グループが取り組むCSR活動の姿

NEXCO東日本グループのCSRキーワード

「地域をつなぎ、地域とつながる。」



NEXCO東日本グループのCSR宣言

NEXCO東日本グループは、経営理念及び経営ビジョンの実現を目指して、「地域をつなぎ、地域とつながる」をキーワードにCSRの取り組みを進めます。

基本方針3 グローバルな視点を持ち、新たな分野に事業を拡大することで、 経営基盤の強化を図る

NEXCO

市場拡大を見据え技術マーケティングの展開力を強化します

■技術マーケティングの展開力強化

○当社グループが開発した技術商品や技術サービスの
販売促進を目指し、販促ツール(Webサイト・総合カタログ
等)を活用したマーケティング活動を強化します。



NEXCO東日本グループ 技術商品サイト
<http://www.e-nexco-tech-service.jp/>



管渠点検ロボット
～もぐりんこマックス～

ネクスコタイプの排水管、
コルゲートパイプ用点検ロボットです。



带状ガイドライト
(商用電源式带状視線誘導)

線状照明で厳しい気象条件
でも有効な視線誘導！



トンネル照明LED化ユニット

既存の蛍光灯器具を利用して、光源部分
だけをLEDに取り換えるユニットです。



移動気象観測システム
(インテリジェント・ウェザーカー)

冬期道路気象調査や防雪対策工
の評価、構造物調査に活用可能。

基本方針3 グローバルな視点を持ち、新たな分野に事業を拡大することで、経営基盤の強化を図る

NEXCO

将来の『飛躍』につながる事業化の可能性を追求します

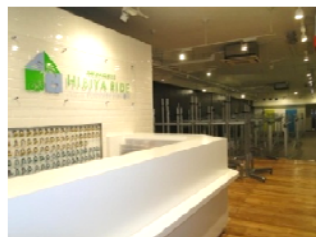
高速道路関連ビジネスでは、資産活用事業、カード事業、『ドラぷら』情報提供サービスなどを展開しています。
更なる『飛躍』を求め、新たな事業領域を開拓します。

【資産活用事業】

経営資源を活用した多様な事業を展開しています。



▲駐車場事業(日比谷駐車場)



▲自転車駐輪場事業(日比谷駐車場)



▲高架下事業



▲トラックターミナル事業



▲ホテル事業(佐野SA)

【カード事業】

車の旅をサポートするサービスを提供しています。



三菱UFJニコス(株)



イオンクレジットサービス(株)

【観光事業】

地域活性化に寄与します。



▲長者原SA渡り鳥観察会



【ドラぷら 情報提供サービス】

高速道路情報を提供しています。



PC版



「ドラぷらアプリ」版

更なる飛躍

■事業化の可能性を追求するための調査・検討の推進

○新たな事業領域を開拓するため、あらゆる可能性を追求しながら、お客さまサービスの向上や将来の収益向上につながる調査・検討を推進します。

基本方針3 グローバルな視点を持ち、新たな分野に事業を拡大することで、 経営基盤の強化を図る

NEXCO

グローバル・ネットワークの構築を推進し、海外事業の展開と社員の活躍の場を拡大します

■ODA事業の推進・貢献

○ODAコンサルタント事業の実施

・JICAから受注した『インド バンガロールITSマスタープラン策定調査プロジェクト』を着実に遂行するとともに新規のODAコンサルタント案件の形成を図ります。

○ODAプロジェクトへの運営事業参入に向けた取組み

・例えば、交通管制センターの運営等のODAプロジェクトの運営事業参入に向けたFS調査を実施し、準備を着実に実施します。



▲インド バンガロール都市圏の交通状況



▲ロードプライシング導入例



▲コンサルタント事業



▲交通管制センターに設置予定の大型モニター

基本方針3 グローバルな視点を持ち、新たな分野に事業を拡大することで、 経営基盤の強化を図る

NEXCO
東日本

■道路PPP事業の参画

○小規模試行参入の実施

- ・平成25年6月にインドの陸上交通インフラ開発会社であるITNL社(IL&FS Transportation Networks Limited)との間で、協働調査実施に関するMOU(覚書)を締結しました。
- ・平成26年3月にPune Sholapur Road Development Company Limited.(プネ～ソラプール道路の4車線化拡幅事業を行う特別目的事業体(SPV))の株式を取得しました。
- ・インドの道路PPP事業に試行的に参入することで、道路PPP事業運営に関する知見の蓄積と遂行能力の向上を図ります。

○技術アドバイザリー業務の実施

ITNL社(IL&FS Transportation Networks Limited)と契約した技術アドバイザリー業務を着実に遂行します。

○新規PPP事業参入に向けた取組み

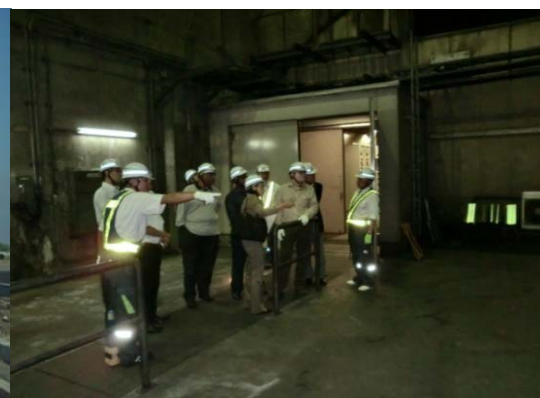
インドの道路PPP事業の採算性や参入リスクについて、ITNL社とともに調査・検討を進め、PPP事業への本格参入に向けて着実に準備を進めます。



▲ ITNL 社との協働調査実施に関する覚書締結



▲インド プネ～ソラプール道路状況



▲技術アドバイザリー業務

基本方針3 グローバルな視点を持ち、新たな分野に事業を拡大することで、 経営基盤の強化を図る

NEXCO

■国際協力・技術交流活動を通じた社員の グローバル化

○JICA高速道路研修の実施

国際協力の観点からJICA研修生の受入れを引き続き実施するとともに、JICAから研修事業を受注し、高速道路事業の概要についての講義や高速道路施設への現場案内を実施します。

○海外機関との技術交流等の推進

オーストリアの高速道路会社ASFINAG(Autobahnen- und Schnellstrassen Finanzierungs Aktiengesellschaft:ASFINAG:アスフィナグ)等海外機関と技術交流等の推進を図ります。



▲ ASFINAGとの技術交流協定



▲ JICA研修生への現場案内

基本方針4 目指すべきグループ像を実現するための企業文化を構築する

NEXCO

高速道路のプロ集団として、グループ一丸となり不断の道路管理を行い、未来に向け、一層マネジメント力を高めます

■日々の業務の着実かつ継続的な実施

㈱ネクスコ・
トール東北

㈱ネクスコ・
トール関東

㈱ネクスコ・
トール北関東

㈱ネクスコ・
サポート
北海道

㈱ネクスコ・
パトロール
東北

㈱ネクスコ・
パトロール
関東

料金所では、交通状況に応じて適切なレーン開放を行い、多種多様な車両の車種判別、各種料金割引、ETCのトラブルなどに迅速かつ的確に対応し、日々お客さまが快適に高速道路をご利用いただけるよう努めています。



正確、迅速、笑顔
で対応します！

お客さまから通行料金を収受



ETCレーンのモニター確認によるお客さまご案内

【料金管理】

【交通管理】

あなたに、ベスト・ウェイ。



お客さまの安全で快適なドライブをサポートするため、道路巡回により交通管制室と連携を図りながら、異常事態への早期対応を行っています。また、交通の安全と道路構造物の保全を目的に、法令等に違反する車両に対する指導・取締りを行っています。



落下物の処理作業



交通管制室



小さな異常も見逃
さないぞ！

CCDカメラによるトンネル内点検



橋梁点検車による点検

【保全
点検】

【道路敷地等
管理】

高速道路の沿道を巡回し、道路敷地内の不法投棄、立入防止柵の状態等を監視します。

【維持
修繕】



のり面の草刈作業



除雪作業

プロの作業をお見
せします！

高速道路の安全・安心・快適な走行環境の確保や良好な沿道環境の保全のため、路面やトンネル等の清掃、草刈や樹木の剪定、交通事故や災害時の復旧作業、雪による障害を最小限にするための除雪や凍結防止作業などを行っています。

㈱ネクスコ・
エンジニアリング
北海道

㈱ネクスコ・
エンジニアリング
東北

㈱ネクスコ
東日本
エンジニアリング

㈱ネクスコ・
エンジニアリング
新潟

㈱ネクスコ
東日本
トラスティ

㈱ネクスコ・
メンテナンス
北海道

㈱ネクスコ・
メンテナンス
東北

㈱ネクスコ・
メンテナンス
関東

㈱ネクスコ・
メンテナンス
新潟

基本方針4 目指すべきグループ像を実現するための企業文化を構築する



■維持管理サイクルの的確な実施

○安全・安心への取組み

・平成24年12月の笹子トンネル事故以降、お客様により安心して高速道路をご利用いただけるよう、緊急点検や一斉点検により安全確認を行いました。

また、二重の安全対策などによる第三者被害防止対策に努めてきたところです。



▲点検実施状況(ジェットファン)



▲第三者被害防止対策事例(ジェットファン)



▲天井板撤去(関越トンネル)



○今後の取組み

・NEXCO3社の検討ワーキング並びに『点検実施基準及び資格に関する検討委員会』での検討を踏まえた点検業務の見直しを行います。

▼点検業務の見直しにおける検討事項

・点検実施における現状の課題を整理し、課題の解決や点検の信頼性向上に向けた点検のあり方についての検討を行う

区分	項目	検討内容
点検のあり方	点検目的の明確化	維持管理サイクルにおける点検の位置づけや、点検の中で実施すべき調査などの内容や整備すべき基準類の明確化
	点検実施基準の再設定	健全性・第三者等被害防止を目的とした手法や範囲の再整理、重要度や経過年数・リスクなどに応じたきめ細やかなメリハリのある点検実施基準の再設定
	点検の信頼性向上	(1) 精度向上と効率化の推進(点検環境整備と設計思想へ反映、非破壊検査など高度技術の整理、機械化、自動化、ICT化による効率化など) (2) 点検技術者の能力向上(点検者の資格等のあり方、技術力向上、教育、技術伝承、研修施設の活用 など)

基本方針4 目指すべきグループ像を実現するための企業文化を構築する

NEXCO

効果的・効率的な企業活動を目指し、ITマネジメントの推進のもと、不断の業務改善を図ります

■タスク・ダイエツ活動の推進

○「仕事の効率化と質の向上」にグループ全体が無意識のうちに取り組む企業風土作りを目指し、文化として定着していく取組みを推進します。

タスクダイエツ活動とは

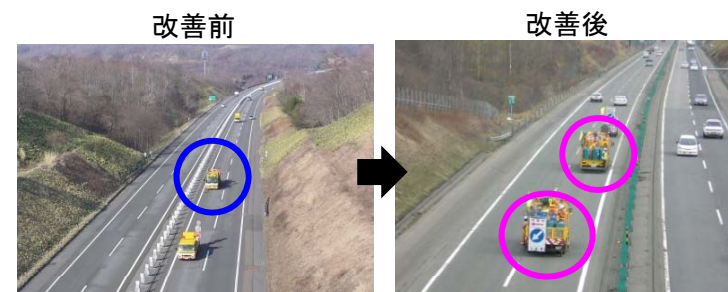
- ・社員一人ひとりが自発的に取り組む実施型の業務改善活動。
- ・平成18年度から活動を開始し、これまでの改善事例は約4,000件。
- ・活動に取り組む社員のモチベーション向上などを目的として、毎年発表会を開催。

■情報システムの最適化と活用推進

○IT資源の最適化を行い全体コストの低減・運用効果の最大化を図ります。

○SMHなどITを活用した施策の実現を支援します。

＜改善事例＞ レーンマーク塗替え作業の安全・効率化



塗装に要する時間が異なるため、中央側と路側の2本のレーンマーク塗替え作業を別々に行っていたが、作業車両の速度を調整することで2本同時に行うことができ、作業時間を短縮し、コストの削減を図った。

規制回数:半減 日施工当たり人件費:37%削減



▲NEXCO東日本グループ タスク・ダイエツ発表会

基本方針4 目指すべきグループ像を実現するための企業文化を構築する

NEXCO

会社の業績向上に資するため、経営管理力や現場力などの開発・強化につながるような人材を確保し、育成します

■ 多様な人材・優秀な人材の採用及びダイバーシティーの推進

○経営環境・事業展開等を踏まえ、優秀かつ多様な人材を計画的に採用します。
特に、女性の活躍の場を広げるために、女性社員の積極的な採用に取り組みます。

■ 社員の能力開発の支援及び多様な人材・グローバルな人材を育成するための研修の強化

【人材育成基本プログラム】

グループ経営ビジョンを具体化してグループ全体の経営力・専門力を向上させる多様な人材の育成に取り組みます。

【女性リーダーの育成】

女性の指導的地位への登用に向けたロールモデルの育成のための研修を実施します。

【グローバルな人材の育成】

グローバルな視野をもった人材を育成する研修計画(海外実務、語学(通信教育)、海外事業OJT等)を策定・実施します。



▲現場で活躍する女性社員



▲新入社員研修



▲海外で活躍する社員

基本方針4 目指すべきグループ像を実現するための企業文化を構築する

NEXCO

あらゆるステークホルダーのさらなる理解・共感につながる積極的な広報活動を行います

■事業活動への“理解”が“共感”へとつながる積極的な企業情報の発信

- 経営トップによる定例会見やニュースリリース等を通じて、報道機関等へ適時・適切な企業情報の発信を積極的に行います。
- 出版物や各種メディアを活用して、お客さまに役立つ情報の発信に努めます。
- お客さまイベントや現場見学会などお客さまとの“ふれあい”を大切にした広報活動を行います。

■地域との連携を大切にした広報活動の実施

- 地域有識者懇談会を開催し、地域の皆さまとの連携を図ります。
- 高速道路の利用促進につながる地域情報の発信に努めます。
- 地域交流イベントに参画するなど地域との結びつきを大切にします。

■「お客さまの声」への真摯な対応

- お客さまの声を大切にし、また真摯に対応することでお客さまサービスの向上に努めます。



▲「鬼平江戸処」記者発表会



▲建設現場の見学会
(常磐道 大野台希望の橋・お絵かき会)



▲地域交流イベントへの参画
(横浜市栄区民まつり)